

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターしんほんまち「あゆみ」			
○保護者評価実施期間	2025年12月5日		～	2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数)	28名
○従業者評価実施期間	2025年12月5日		～	2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一日通園での支援を行っているため生活と活動それぞれの場面に応じた集団の中での個別支援ができる。	異年齢での生活クラスや発達段階に合わせた活動グループの編成など生活や活動場面それぞれに応じた集団構成をしている。 生活クラスと活動グループそれぞれで異なる職員を配置をすることでたくさんの大人との関わりをもち、いろいろな大人から褒められることで“できた、やった”の実感をもってもらいお子さんの自信につなげている。	年間を通して随時発達段階に合わせた活動グループの編成をし、個々の支援目標を取り入れた集団での活動プログラムの組み立ての強化を図る。 年長児においては就学を念頭に置いた取り組みをより強化していく。
2	保護者参観や懇親会、勉強会などを通じて保護者同士のつながりを持つ機会をつくっている。	年間計画に沿って定期的な保護者参観や懇親会を開催している。父親同士の交流の機会の場を作れるよう不定期でのパパ会もおこなっている。 今年度は年2回の親子行事を開催し、親子で楽しみながら「あゆみ」での活動を経験できる機会を作った。 休日の開所をすることでお子さんの利用の受け入れができる体制を整え、より多くのご家族が勉強会に参加できるよう計画した。	定期的に親子行事の開催を計画し、ご家族が安心してお子さんと楽しめる機会を作る。 休日の開所など、お子さんとご家族が一緒に利用できる体制を作ることで、今後もより多くのご家族が勉強会に参加できるよう取り組みを進めていく。
3	「あゆみ」での生活全般を通じたお子さんの発達段階や特性をしっかりと把握したうえで保育園や幼稚園等との連携を図ることができる。	事前にご家族の不安や心配をお伺いしたうえで保育園等を訪問し、ご家族と保育園や幼稚園等のお子さんへの理解に違いを感じた場合は、双方の立場に立ってお子さんへの理解を深められるよう仲立ちをしている。 「あゆみ」への訪問や見学を積極的に受け入れ、「あゆみ」でのお子さんの様子や具体的な支援の手立てを共有しつつ保育園や幼稚園等での支援に繋げられる助言をしている。	「あゆみ」と保育園や幼稚園等の連携を深め、保育園や幼稚園等の生活の中で無理なくそれぞれのお子さんに必要な支援ができるよう互いに協力できる関係作りに努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園等の併行通園をしているお子さんはそれぞれの場所で他の子どもと関わる機会があるが、未就園のお子さんは地域(他の保育園等)との交流がほとんどない	地域の行事(ハロウィン)への参加や外部のボランティアを招いた行事や活動などを行っているが、定期的な地域との交流の機会を作ることが難しい。	現在行っている取り組みは継続しつつ、どのような形で交流の機会を広げていくことができるか検討する。
2	HPやSNS等での情報発信が少ない	今年度は子育て世帯に向けた文書の作成や地域で開催された子育てに関する勉強会への協力など、外部への発信や地域とのつながりの強化を図ったが、児童発達支援センターしんほんまちの取り組みを知ってもらう機会はまだまだ少ない。	児童発達支援センターしんほんまちを広く知ってもらうため情報発信の際に活用するツールや発信内容、頻度について検討するとともに、地域とのつながりの強化に向けた取り組みを行う。
3	緊急時のご家族への連絡体制に不安がある	事前に緊急連絡先をお伺いしてすぐに連絡を取れる体制をとっているが、災害時等に十分な対応ができるかどうか不安がある。	災害時等の対策について事業所内でより具体的な場面を想定した話し合いを重ねていく。